



昨日は今日のいにしへ 今日は明日の昔

室町時代の歌謡集『閑吟集』にある言葉です。

いつの世も、日々の出来事は「いにしへ」の彼方に足早に去っていきます。「ああ、今日はいい日だったな」と思う日が来るのが待ち遠しく感じる日々です。

日本語は主語を隠し、責任を曖昧にするのに都合がいいです。その曖昧さに紛れて、多くの人が結果責任から遁走しがちです。

「人の愚かさが誰かに注意されて改まるならば、悲しみや怒りではなく、笑いによって注意を下されるべきではないだろうか」と作家の井上ひさしさんは言っています。人間という「悲しく、おかしい存在」が醸し出す笑い、その笑いによる世直しが必要ということでしょう。

〈むずかしいことを やさしく やさしいことを ふかく 細かいことを ゆかいに ゆかいなことを まじめに〉
井上ひさしさんのモットーでもあります。

井上ひさしさんには、1982年に北京でお会いしたことがあります。その時、色紙に「小さな火花」という詩をいただきました。

〈万里の長城のはじまりも小さな石一つ、長江のはじまりも小さな水たまり、今はごくごく小さな火花であるけれど、やがては広く世界を照らし友好の象徴となる。〉
という趣旨の内容であったと記憶しています。今は、北京日本入学校の校歌の歌詞にもなっています。

さて、行政を進める中では、説明責任と結果責任が問われ、それに伴いその確たる事実を証明することが求められます。

その中で「あること」の証明に比べ「ないこと」の証明は格段に難しいものです。「ないこと」つまり不存在の証明が「悪魔の証明」と言われる所以です。

風土や体質とは便利な言葉です。「そういう風土、体質だから仕方がない」と言い訳に使うことができるからです。「賛成か反対か」。決断とは、何かを選びそれ以外のものを捨てることです。決断を下せず思い悩むとき、そこには必ず「選ぶ難しさ」と「捨てる難しさ」が同居します。心眼というフィルターを通して判断が求められる所以です。



市長 豊留悦男